

札幌
浦河会会報

第四十四号

創刊 昭和54年5月26日
発行 札幌浦河会事務局

前町長挨拶

前浦河町長 池田 拓



新年明けましておめでとうございます。令和八年の新春を迎えられましたこと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より浦河町に心を寄せていただき、心より感謝申し上げます。

私事ではありますがこの度浦河町長を退任いたしました。四期十六年間、札幌浦河会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼を申し上げます。大きな壁に当たった時、札幌浦河会や東京浦河会がどれほど励みになったか、言葉では言い尽くせない頼りになる存在でした。さて、昨年は赤心社発祥の地、兵庫県三田市と友好交流の締結

を行いました。杵臼を開拓した天草市から馬場市長はじめ河浦地区の皆さんが訪問してくれました。台湾の新城郷には町議会が訪問いたしました。

浦河町は政府の進める交流人口の増大に、着実に取り組んでいます。また、私もこれからは一町民として松田新町長をしっかりと支えていく所存です。結びに新年が皆さまにとって、笑顔あふれる一年となりますよう心よりご祈念いたします。長い間ありがとうございました。

新町長挨拶

浦河町長 松田 有宏



新年、明けましておめでとうございます。

皆様とともに、令和八年の始まりを迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。昨年十二月二十四日より、「想いと意欲を実現できるまちづくり」を目指し、町長として仕事をさせていただいていますが、皆様にお会いできる機会を楽しみにしています。

本年の干支である午年は、躍動・成功を象徴し、行動力や情熱を意味する縁起の良い年と言われています。馬の町浦河が元気に溢れる一年となることで皆

新年の会長挨拶

札幌浦河会会長 飯塚 敏彦



令和八年の初日を迎え、会員の皆様により新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染で令和二年から令和六年までの四年間総会・懇親会が開催できませんでしたが、やっと令和六年開催が可能となりました。令和七年も会員十九名の参加となり、また、池田拓浦河町長、長崎

様のふるさとへの思いに添えていきたいと決意を新たにしていますので、皆様には町政の推進に對しまして、これまでと変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、新年が皆様にとりまして、健康と幸福、そして可能性に満ちた年となりますことを心からご祈念いたしますとともに、まちづくりに誠実に取り組むことをお誓い申し上げます、年頭のご挨拶いたします。

企画課長をお迎え出来、賑やかに会を開くことが出来ました。浦河町からは、全員に当たる故郷の海産物をいただき、さらに新しく産物となった浦河産黒毛和牛が加わり、抽選会が大いに盛り上がりました。

最近の浦河町は、三〇〇人を超すインド人の移住もあり、TVの話題になっていることも紹介されました。馬産地でもある浦河町からはJRAでの競馬の成績が近年特に優れて、GIで優勝する馬も出ているということでした。総会直後の六月十六日宝塚記念では、浦河町三嶋牧場のメイショウタバルが優勝しました。

池田町長は十二月で四期十六年を過ぎ、今季限りで勇退するとの発表がありました。これまで浦河町のリーダーとして優れた業績を上げてこられたこと感謝したいと思います。十一月二十五日には町長選挙の告示が

「社史」と「経営者伝」について、
経営の視点から考える2日間

社史と経営者伝・札幌展

入場無料

■特別セミナー「社史は企業資産」——企業の沿革とパーパス経営の因果関係を徹底解説——

講師：佐藤俊恵 先生 九州情報大学 中小企業経営研究センター 客員研究員
2月6日 13:00～14:00 ※セミナー後に質疑応答の時間を設けています

■厳選した100冊の実物展示

■社史事例紹介パネル展示

株式会社グッディホーム 様 社会福祉法人北海道光生舎 様

お問合せ先



株式会社アイワード

札幌市中央区北3条東5丁目5番地91 TEL 011-241-9341

2026年2月5日(木) ▶ 6日(金)
12:00～20:00 10:00～19:00

札幌市教育文化会館3階
(研修室302) 中央区北1条西13丁目7



令和七年度札幌浦河会総会 懇親会の開催

令和七年度の定期総会は、昨年の引き続き浦河町から池田拓町長、長崎哲之企画課長をお招きして、六月十一日(水)十八時から「札幌グランドホテル」東館十七階「青雲の間」にて開催された。出席者は会員十六名、日高信金から浦河町出身の松本侑大さん、松本玲奈さん、玉澤有美さん(写真1)をゲストに総勢二十一名でした。

開会に当たって、飯塚会長から、本日二十一名の出席があったことへの感謝と池田町長、長崎課長の出席に対する感謝が述べられた。日高信金の渡辺亮支店長が昨年に続きゲストに浦河高校出身者三名の出席に対して感謝が述べられた。

飯塚会長は、今総会で役員の



(写真1) 左から日高信金、松本玲奈さん、三浦悦子さん、日高信金、玉澤有美さん



(写真2)



(写真3) 浦河産黒毛和牛が当たり喜ぶ三浦英三理事

行われましたが松田有宏さん(現副町長)以外に立候補者が無く、無投票当選となりました。これからは浦河町の発展にご尽力されることを願っています。

さて、札幌浦河会の現状は、高齢化が進み、会員の死亡や、退会者があり、現在会員数が四十名を割りました。何とか若い会員の入会を皆で努力していきたいものです。なお、役員も高齢化が進んでいることから、昨年の総会では五十代の森田直史

さんに理事参加をお願いしました。会長の私と二人三脚で事務局、会報出版業務をこなしていきます。また、空席になっていた監事に専門家である行政書士、村田菊男会員に会計監査をお願いしました。七十代の後呂道徳さんにも理事をお願いしました。

会員の皆様、体調管理に気をつけ、来年の総会でまたお会いできることを願って年頭のご挨拶いたします。

池田町長からは、長崎課長とともに招きいただいたことへの感謝と近年インド人の移住者が多数あり、TVなどで話題になっていること、また、浦河町の

昆布の生産が回復していること、競走馬の活躍など良いニュースが多いことがのべられた。

また、今年の十二月で町長の任期が四期十六年になることから勇退することも述べられた。

最後に札幌浦河会の皆さんのご健康を祈念申し上げるとするご挨拶をいただいた。

引き続き九十歳を超えられた西塔泰延理事の開会挨拶の後、飯塚会長が議長となり総会議事に入った。会長の会務報告、村瀬圭子理事が急遽欠席されたため、飯塚英明理事が会計報告、村田菊男行政書士の会計監査報告があり、一括承認された。

引き続き令和七年度の予算審議が行われ承認された。

次に役員人事について図られた。本年度からの二年間の役員

は、会長飯塚敏彦、副会長岡崎行晴、会計担当村瀬圭子常任理事、西塔泰延理事、三浦英三理事、飯塚英明理事、森田直史理事、後呂道徳理事、村田菊男監事が承認された。

この結果事務局担当、会報担当は欠員となるため、会長と森田直史理事が当面二人三脚で行うことも承認された。

全ての審議を終え、三浦英三理事から懇親会の席へと移ることが述べられ、会長の挨拶の後、長崎企画課長の挨拶・乾杯の音頭で酒の席へ移った。

グランドホテルの料理を楽しんだ後、今年も浦河町からの沢山のお土産が届いており、抽選会にはいった。新巻きサケ(大)、ホッケの開き、ニシン、金目の開きなどの外、今年は浦河産の黒毛和牛(写真2)など、抽選会は大いに盛り上がった。

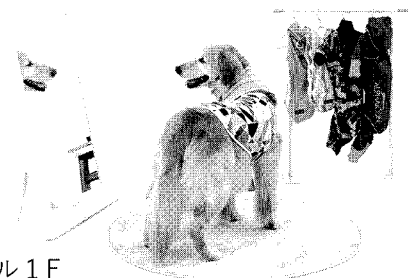
(写真3)

最後は三浦英三理事の挨拶で懇親会が終わった。

株式会社アイコンズ -DOG WEAR-

ALPHAICON® STORE

北海道札幌市中央区南1条西7丁目12-6 パークアベニュービル1F



浦河町近況

■駐日インド大使が浦河町を
表敬訪問。懇談会を通
じて交流を深める

四月二十九日、駐日インド大使のシビ・ジョージ大使が浦河町を表敬訪問し、池田町長らと多文化共生について懇談をしました。

懇談会ではうらかわ優駿ビレッジAERUで開かれ、シビ・ジョージ大使は「浦河町で多くのインド人が暮らしていることを嬉しく思います。外国人人材の受け入れが成功している浦河町は、全国の模範となる存在です。町民の皆さんに心から感謝したい」と述べ、町の取り組みを高く評価しました。

懇談会終了後、大使は町内の牧場で働くインド出身の労働者と交流し、JRA日高育成牧場なども視察。訪問の締めくくりには、うらかわ優駿ビレッジA



駐日インド大使が浦河町を表敬訪問。
懇談会を通して交流を深める

E R Uで記念の植樹を行い、友好の印を残しました。

■一〇〇年後も活発な交流
を願って。三田市と友好
都市提携を締結

十月七日に赤心社記念館（荻伏町）で、三田市・浦河町友好都市提携調印式が開かれ、池田町長と田村市長が宣言書に署名し、友好都市提携を結びました。

兵庫県三田市（旧三田藩）は、明治十四年に浦河町（旧荻伏村）へ入植し開拓した「赤心社」の初代社長の鈴木清さんの出身地であり、約一五〇年が経過した今でも商工会議所などの民間で交流が続けられてきました。

調印式で、池田町長は「念願の友好都市提携を結ぶことができ、うれしく思う。今日お互いの出発の日とし、発展していくことができれば。一〇〇年、二〇〇年後も、子どもたちが活発に交流してくれることを願っている」と話しました。



100年後も活発な交流を願って。
三田市と友好都市提携を締結

■ファミリースポーツセンター
がリニューアル。ゼロネクスト
ワンアリーナとして供用開始

ファミリースポーツセンターのリニューアルオープン記念式典が五月十日に開かれ、関係者ら六十一人が出席し、新たな施設のオープンを祝いました。

同センターは昭和四十八年に建設され、町のスポーツや健康づくりの中心施設として長年親しまれてきましたが、老朽化の問題などから令和五年九月より大規模改修を行ってきました。

式典は、浦河高校吹奏楽部の演奏やテブカット、施設の内覧が行われ、池田町長は「健康増進・防災機能強化・新たな町のシンボルをキーワードに魅力ある施設へと生まれ変わった。ゼロネクストワンアリーナとして地域の健康づくりや防災施設



ファミリースポーツセンターがリニューアル。
ゼロネクストワンアリーナとして供用開始



の拠点として愛される施設を目指し、関係者一同で努力していく」と話していました。

広報うらかわ 5月号特集 | FSC リニューアルオープン





三嶋牧場生産のメイショウタバル号が宝塚記念を制覇



三嶋牧場生産のメイショウハリオ号が川崎記念で優勝

■三嶋牧場生産のメイショウハリオ号が川崎記念で優勝

四月九日に川崎競馬場で開かれた「第七十四回川崎記念」で、三嶋牧場生産のメイショウハリオ号が後方から追い上げ、見事優勝しました。

翌日十日には関係者らが牧場に駆け付け祝福。松田副町長は「春の訪れとともに町へ優勝の



浦河港でトラウトサーモン初水揚げ。
浦河町栽培漁業研究会「海面養殖試験事業」

■浦河港でトラウトサーモン初水揚げ。浦河町栽培漁業研究会「海面養殖試験事業」

町と日高中央漁業協同組合で構成する、浦河町栽培漁業研究会が実施する海面養殖試験事業で、七月一日に浦河港にて、養殖したトラウトサーモンを初め

知らせを受けて嬉しく思う、幸先の良いスタートが切れた。これからも頑張つてほしい」と激励。同牧場の三嶋健一郎専務は「調教師から気配は良いと聞いていたので期待していた。ケガだったり出走取消しになったりと色々あったが、良く復調してくれたと思います。今後無事に次のレースを迎えてほしい」と話していました。また、六月十五日、阪神競馬場で行われた、第六十六回宝塚記念（GⅠ）では、三嶋牧場生産のメイショウタバル号がスタートから先頭に立ち、そのまま押し切り見事優勝しました。

て水揚げしました。

この事業は、近年漁獲量が低迷している中、漁業者の新たな収入源の確保につながるため昨年よりスタート。今回の水揚げでは4kgを超える個体も確認され、順調な結果となりました。

日高中央漁業協同組合の奥田宗一郎副組合長は、「想定よりも良い結果が得られ、今後に希望が持てる。事業化については、残りの試験期間で、関係機関と連携しながら進めたい」と話しました。

■桑田牧場生産のアンモシエラ号がJBCレディスクラシックで優勝

十一月三日、船橋競馬場で行われたJPNⅠレース「第十五回JBCレディスクラシック」に出走した、桑田牧場（桑田美智代社長）生産のアンモシエラ号が、鮮やかに逃げ切り見事に優勝を果たしました！

アンモシエラ号は昨年にもこのレースで優勝しており、JBC

Cレディスクラシック史上三頭目の二連覇を達成しました。

優勝後の十一月五日には、桑田牧場に和田教育長や関係者が集まり、アンモシエラ号の勝利を祝福し、労いの言葉をかけました。

桑田社長は「レースの様子は現地で見ていて、最近はなかなか勝てない日が続いていた。二連覇は本当にうれしく思う。今後無事に走ってほしいと願っている」と喜んでいました。



桑田牧場生産のアンモシエラ号がJBCレディスクラシックで優勝

編集後記

今期からこちらの会報誌を担当させて戴くこととなりました。昨年は新たに中田晋吾さんが会に加わり、大変嬉しく思っております。そして今後も新たな方をお迎えできるように、飯塚会長にご相談申し上げながら試験的に会の「ホームページ」とSNS「X」をお作りしてみました。入会の受付に加え、会員の皆様からのお便りなど

よろしければ是非ご覧ください

さっぽろ浦河会ホームページ



SNS「X」



さっぽろ浦河会 検索



まごころ ふれ愛
日高信用金庫 札幌支店



札幌市中央区北4条西5丁目1-4

大樹生命札幌共同ビル4階

TEL(011)200-7070

▲ お得なキャンペーン情報・当金庫の地域貢献事業など
ひだかしんきんホームページからご確認ください

ひだかしんきん

検索

